

## 29. サクラサルハムシによるスギの被害

長崎県総合農林センター 滝 沢 幸 雄

### はじめに

スギを加害するハムシ科の昆虫ではスギハムシ *Basilepta pallidulum* (BALY), ケブカスギハムシ *Lypesthes itoi* CHUJŌ, ホタルハムシ *Monolepta dichroa* HAROLD, コフキハムシ *Lypesthes ater* (MOTSCHULSKY) の4種が知られている。筆者は1962年夏にサクラサルハムシによるスギの被害を調査する機会を得たので報告する。種の同定並びに種々御教示いただいた中条博士に厚く御礼申し上げる。

### 被害発生地の概況

被害発生地は、長崎県諫早市貝津町の総合農林センター附属実験林のスギ造林地である。(貝津町より買収した造林地)この造林地は海拔100~150m, 北西に面して傾斜は15~25度, 山の中腹より谷に位置する。母岩は三紀層で土壌型は Bp(d) 型である。

植生はカヤを優占種としてワラビ, サルトリイバラ, ヤブムラサキ, ビロウドイテゴ, アカメガシロ, サカキ, タラノキ等である。

植栽されているスギは地スギの実生, 面積は1.52haあつて, スギの他ヒノキが約1割程度植栽されている。樹令は10年生でha当りの植栽本数は6,000本である。スギの生長は悪く, まだうつ閉に達していない。スギの平均樹高は2.50m, 平均根元径は4.7cmである。

### 種名

サクラサルハムシ *Cleoporus variabilis* (BALY), ハムシ科のサルハムシ亜科に所属する。別名にヒトミヒメサルハムシの名があるが, 中条(1961年)により標準和名をサクラサルハムシと改称された。

### 分布

日本(本州, 四国, 九州) 朝鮮, 満州, 支那, 東シベリヤ。

### 成虫の形態

体長一雌3.00~3.25mm, 雄2.75~3.00mmある。

体色は黒色のものから褐色のものまであつて, 極めて変化に富んでいる。基本型は黒色を主として顔面, 触角の基部, 前胸脚, 翅鞘肩部上の斑紋および翅端部

が赤褐色であるものである。被害地で採集された標本では, 体色は黒色で頭楯, 上唇, 小腮鬚および基節が暗褐色で, 転節, 腿節, 脛節および跗節が褐色である個体と, 体色は黒色を主として翅鞘部に黒斑紋を有して頭楯, 上唇, 小腮鬚は黄色, 基節は黒褐色の個体が多かつた。

体形は略々卵形。胸背, 翅鞘背に光沢がある。頭頂は凸状に隆起して点刻なく平滑。頭楯は凹みのある三角形。触角は糸状で11節からなり, 雌は体長の半分よりやや短かく, 雄はやや長い。前胸背の巾は長さの約1.5倍ある。

翅鞘は前胸背の巾より広く少し凹みをおび, 各翅鞘に11条の点刻縦列を有する。腿節に一小齒状突起を有し, 爪は2枝に分かれ内枝は外枝より短かい。



第1図 成虫

卵, 幼虫, 蛹については不明。

### 生態

成虫の出現期は中条によれば6月中旬と7月中旬であるとされている。被害地で観察では7月24日に被害を発見した時は既に針葉が加害されて変色していたのが見られ, 更に8月14日, 22日に調査した時にも成虫が認められた。9月6日に調査した時には成虫の

発見はできなかつた。従つて中条によるものと考え合せて、成虫は6月中旬～8月下旬に出現するものと思料せられる。

成虫は日中、夕方共に針葉上に認められた。成虫に触れたり、近づいたりすると直ちに飛翔することなく地上に落下して、地被物にかくれる習性がある。交尾は針葉上とする。



第2図 交尾中の成虫

卵、幼虫、蛹等については、土壌を掘つて調べたが確認できなかつた。また飼育箱に土を入れて飼育してみたが産卵は見られなかつた。

#### 加 害 植 物

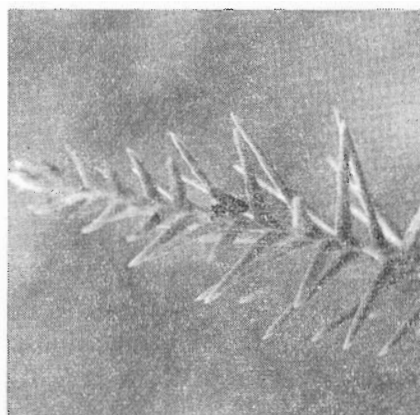
成虫はヒガンザクラ、カイドウ、オランダイチゴ、セイヨウリンゴ等の葉を食餌植物とすることが知られている。

#### 被 害 状 況

加害は林地および室内飼育のいずれの場合も同じく、スギ当年伸長枝の針葉に多かつた。

加害する場合の成虫は針葉に静止して嚙食するが、飛来した成虫では葉の先端部に移動してから嚙食をは

じめる。成虫は針葉の縦軸に沿つて表皮を食い破り、葉肉を浅く嚙食する。被害葉ははじめ葉色に著しい変化は見られないが、2～3日すると葉は萎凋して赤褐色に変わる。



第3図 加害中の成虫



第4図 加害を受けた針葉

同じ造林地に植栽されているヒノキには被害の徴候は認められなかつた。

被害林分の虫の密度は余り高くなかつたので大きな被害は受けなかつた。比較的被害の大きいものでは当年伸長枝の先端部が枯れ上つたが、このために枯死した木はなかつた。加害部位が生長部であるので、虫の密度が高くなつた場合は警戒を要するものと思料される。